

2日目

13:00

~

14:10

【演習】

# 強度行動障害と コミュニケーション

益子のぞみの里福祉会  
レスパ

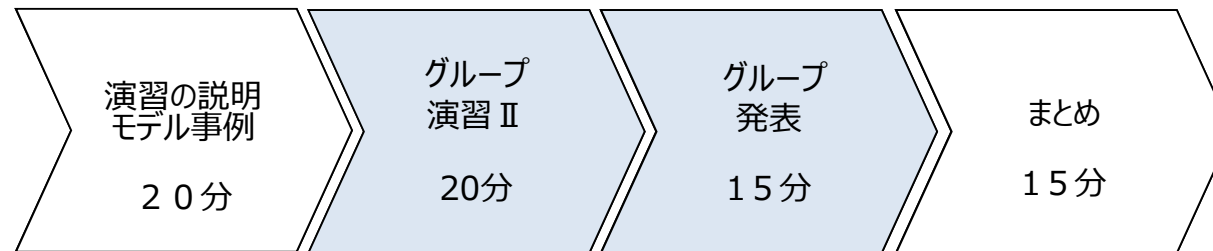
相 田 真 也

# 演習の目的

- ・コミュニケーションとしての行動障害の機能を検討する。
- ・適切なコミュニケーション(支援)を行う大切さを理解する。
- ・行動障害の背景に、気持ちや意見を適切に表現することが難しいこと、障害特性と環境要因が関連していることを理解する。

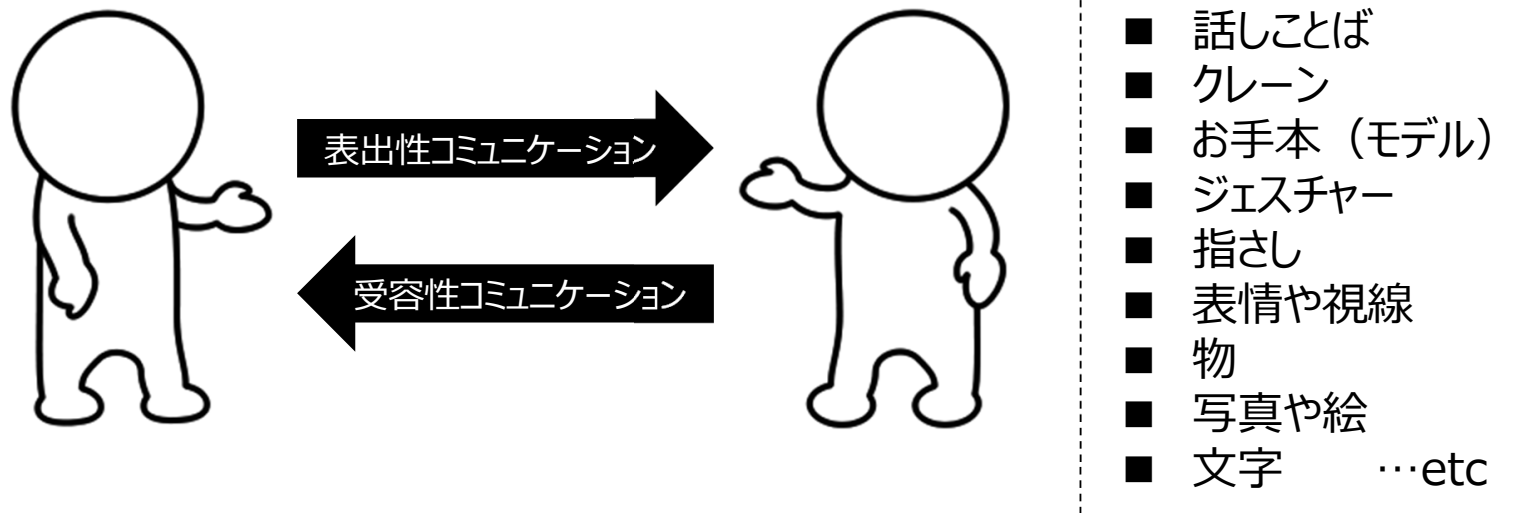
# 演習Ⅱ | 演習の流れ

## ■ 演習の流れ



- これまでお話しした「表出性のコミュニケーション」と、これからお話しするモデル事例で20分です
  - ※ モデル事例は、演習Ⅱで行う内容や方法を紹介しますので、しっかりと聞いておいてください
- 演習Ⅱはグループで行います。司会者、記録、発表者を決めてください。その後、グループワーク、発表を行います

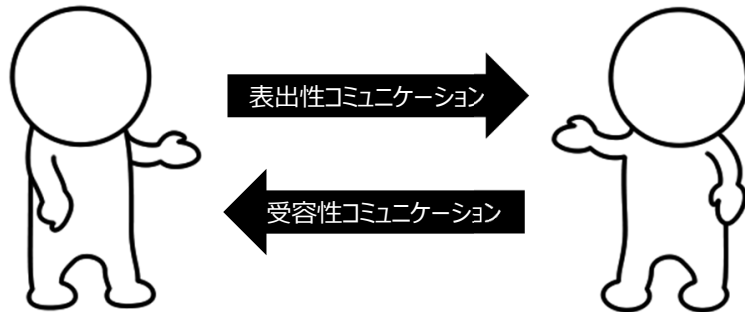
## 演習Ⅱ | その前に



もう一度コミュニケーションの考え方について振り返ります。

コミュニケーションとは、①出し手（表出性）と、②受け手（受容性）の、やり取り（相互作用）のことを言います。そしてコミュニケーションの方法は、話しことば以外にも様々な方法があります。

# 表出性コミュニケーション | 機能



相手に伝えるコミュニケーションには、以下のような機能が含まれています。強度行動障害といわれる人の中には、行動障害として表されているものもあります。

要求	(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
注意喚起	周囲の人に対して、注意を向けさせること / 意識させること
拒否	他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
コメント	個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
情報提供	本人が既に知っている情報を、他者に伝えること
情報請求	本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること
その他	喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

※ 機能の分類は、その他の考え方もあります。本研修では、上記の7つとして考えます。

# ◇受容性について◇

## 初めに

・話しにくいことを話してもらうためには、聞く姿勢が大事です。聞くスキルを獲得するためには、まず、主な目的は、情報の伝達と感情の共有。相手が言語的、非言語的言葉を用いて伝える思いに関心を示し、その意味を理解しようとする過程。情報を得る、相手に社会的報酬を与える。相手との関係を安定させる。という機能があります。

## 受容的な構えで聴く

・相手は、自分と異なる独自の思考、感情、行動傾向を持つ存在だと認めた上で、「とにかく最後まで聴こう」と自分に言い聞かせて受容的な構えを作る。  
※受容的に聴くことと、相手の話に同意することとは別です。

## 話すきっかけを与える

・「あなたの話に興味があり、聞く準備も整っている。好きなように話してください。」というメッセージを送る。  
※「何が?」「いつ?」「もっと〇〇について話してください」といった、支援者が提示した選択肢に依存しない質問を行う。

# 反射させながら聴く

- ・「私はあなたの話を聴いている」というメッセージを伝えながら聴く。
- ※促しは、うなずきや相づち「うん、うん」「なるほど」などの言葉を発する。
- ※反射については、まず、オウム返しは、相手が言ったことをそのまま繰り返す。
- 言い換えは、相手が言ったことを別の語句に言い換える。
- 要約は、相手の言ったこと全体を要約して、相手に返す。話し手の感情をとらえる。ということがあります。

# 体を使って聴く

- ・体の向きは相手の方に向いている。姿勢はリラックスした姿勢、軽い前傾。視線は話し手の目を適度に見る。表情は、話の内容とマッチした表情。そして、適度にうなずく。手はほとんど動かさない。といったことがあります。
- ・非言語メッセージと言語的メッセージが同じであることが重要です。
- ※NG:手を組む、髪の毛をもてあそぶ、小物をいじる、など…

# 話題に関連した質問をする

- ・話し手の話を促す。話し手の流れを変えたり、中断させたりすることがないようにする。
- ・焦点を絞った質問を心がける。

# しぐさを読み解く

- ・相手の音声、表情、手の動きに注目する。
  - ・話している途中で急に話すスピードが落ちたり、笑顔が急に消えたり、手で小物をいじり始めたり、というような変化は、内面の変化や、感情の動きを反映している。
- ※複数のチャンネルが異なったメッセージを伝えているときも、感情の動きがある。

## ☆重要なことは☆

相手に否定的な感情は持たず、立場を理解し、思いやりを持ち、信頼関係を形成していくことが大切になります。



# 特定の利用者を突き飛ばす A さん

- Aさんが利用している障害者支援施設では、月に1回、誕生日会があり、全利用者60人が食堂に集まってお祝いをします。誕生日の利用者の紹介と本人の一言から始まり、最後は歌をうたってケーキを食べます。
- 自傷や他害がある自閉症のAさんも、誕生日会には毎月参加しています。ですが、いつも厳しい表情で周りをキョロキョロしながら、両手で耳を塞いでいます。最後のケーキだけを急いで食べると、走って自室に帰って行きます。
- 今日は誕生日会です。いつも通り、厳しい表情で食堂へ現れたAさん。両耳を塞ぎながら、周囲をキョロキョロしています。すると急に走り出し、突然利用者を突き飛ばしてしまいました。すぐに職員がかけつけました。突き飛ばされた利用者は、姿が見えたり声が聞こえただけで他害を受けていた、特定の利用者でした。

# モデル事例 | 機能の考え方

- 一般的に「行動には何らかのコミュニケーションの機能」があると考えられています。行動障害も同様に、コミュニケーションとしての機能があります
- Aさんの「特定の利用者を突き飛ばした」行動の、コミュニケーションとしての機能にはどういったものがあるでしょうか



## 1. コミュニケーションの機能

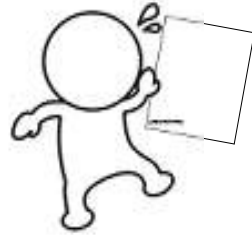
- |                               |                               |  |
|-------------------------------|-------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 要求   | <input type="checkbox"/> 注意喚起 | <input checked="" type="checkbox"/> 拒否 |
| <input type="checkbox"/> コメント | <input type="checkbox"/> 情報提供 | <input type="checkbox"/> 情報請求          |
| <input type="checkbox"/> その他  |                               |  |

## 2. 話ことばに置き換えると・・・

例： 姿を見たくない（拒否）

例： 声を聞きたくない（拒否）

※全て埋める必要はありません。本来の機能や言葉を考えてみてください。



Q. 特定の利用者を突き飛ばすAさん。

要求	(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
注意喚起	周囲の人に対して、注意を向けさせること／意識させること
拒否	他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
コメント	個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
情報提供	本人が既に知っている情報を、他者に伝えること
情報請求	本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること
その他	喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

機能	話しことばに置き換えると...
拒否	姿を見たくない
	あっちへ行け
その他 (不快)	声やニオイが嫌い
メモ	
※背景にある障害特性を記入する	

※相手を理解し、適切な支援を行うことが大切です。どの様な機能が働いているか、相手は何を本当に伝えたいのか、ということを考えてください。

## 演習Ⅱ | 突然、服を脱ぎ出すBさん

- Bさんは中度の知的障害がある10代後半の自閉症の男性です。幼い頃から動き回るのがとても大好きだったので、土日の休みには、広い芝生がある近所の公園へ行くのが定番です。
- 普段はとても穏やかなBさんですが、両親には困っている事が、1つだけありました。それは決まって夏に起きます。いつも通り公園で遊んでいた時です。徐々に険しい表情になり、顔を真っ赤にさせたかと思うと、すべての衣類を脱ぎ、脱いだ衣類を持ってくることです。
- 「暑いからかな？」と思い、薄手の服を準備したり、冷たいお茶を出しても…やっぱり脱いでしまいます。「汗もほとんどかいていないのに。あっ！」お父さんは昨日のことを思い出しました。そういえば夕食後の歯磨きの時、袖に水が少しついただけで、上着を脱いでいました。その後、パジャマに着替えていたから気にならなかったけど、もしかして・・・

# グループディスカッション

- これから「司会」、「記録」、「発表者」1分で決めてください。  
ディスカッションのテーマは下の2つです（時間は20分です）
- 他の人の意見を、批判したり、否定することはNGです

## ディスカッションのテーマ

1. 「突然服を脱ぎ、衣類を両親に持っていく」というコミュニケーションの機能をグループ内でなるべく沢山考えてください。
2. 話し合った機能を、話しことばに置き換えてください
  - ※ 1つの機能に、複数の言葉があることもあります。
  - また、1つの言葉にいくつかの機能があることもあります。
  - ※ 記録者は、発表ができるように準備しておいてください
  - ※ 機能の用紙を参考にしてください。



# 2～3グループから 発表してもらいます

## 発表の内容

1. いくつ推測できましたか
2. 話しことばに置き換えた内容を教えてください

# 演習Ⅱ | まとめ

## コミュニケーションには機能がある

要求	(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
注意喚起	周囲の人に対して、注意を向けさせること / 意識させること
拒否	他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
コメント	個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
情報提供	本人が既に知っている情報を、他者に伝えること
情報請求	本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること
その他	喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

**大切なこと : コミュニケーションの機能を理解する**



## 演習Ⅱ | まとめ



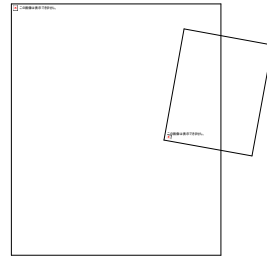
モデル事例のAさんは、特定の利用者を突然突き飛ばしてしまいました。ここでの機能は「不快」と考えられますが、その背景には以下のような障害特性が推測されます。

- 特定の利用者を探す（特定の物事に強く固執）
- 特定の利用者を押す（特定の行動を何度も繰り返す）
- 声やニオイなど、Aさんにとって耐えがたいものであれば（特定の感覚が過敏、または鈍い）

コミュニケーションには様々な機能があります。言語や表情などは一般的に理解しやすいものですが、強度行動障害がある方の場合、非言語あるいは行動障害の中に、コミュニケーションの機能が含まれています。またその背景には、障害特性が関連しているという視点を持つことが大切です。

**大切なこと：障害特性という視点をもつこと**

特定の利用者を突き飛ばしてしまうAさんの機能を推測



要求	(必要、または当然なこととして) 相手に強く求めること
注意喚起	周囲の人に対して、注意を向けさせること／意識させること
拒否	他者からの要求や提案、働きかけなどを断ること
コメント	個人的な思いや意見、批評、ものごとの説明を行うこと
情報提供	本人が既に知っている情報を、他者に伝えること
情報請求	本人が未だ知らない情報について、他者からその情報を求めること
その他	喜怒哀楽などの感情表現。挨拶などの社会的慣習など

機能	話しことばに置き換えると...
拒否	姿を見たくない
	あっちへ行け
その他(不快)	声やニオイが嫌い
メモ	
※背景にある障害特性を記入する	特定の利用者を探す (物事に強く固執する) 特定の利用者を押す (同じ行動を何度も繰り返す) 声やニオイが、Aさんにとって耐えがたいもの (特定の感覚が敏感、または鈍い)

# 演習全体のまとめ

- 話ことばだけでなく、様々なコミュニケーションの方法があり、それを意図的（計画的）に使う工夫を学んでももらいました。また「伝わらない」背景に、障害特性が関係していること、障害特性を理解しておくことの大切さを学んでももらいました
- コミュニケーションとは、①出し手（表出性）と、②受け手（受容性）の、やり取り（相互作用）のことをいいます
- コミュニケーションには機能があること、行動障害もコミュニケーションの一つとなっていることを学んでももらいました。また受容性と表出性のコミュニケーションには、障害特性が関係していること、障害特性という視点を持つことの大切さを学んでももらいました

# 演習全体のまとめ

- 強度行動障害と言われる方の多くは、「話しことばの理解」「話しことば以外の手がかりの理解」「手がかりにタイミングよく注意を向けること」の3つが苦手な人たちです（理解／受容性）
- 強度行動障害と言われる方の多くは、「話しことばで伝える」「話しことば以外の方法で伝える」「適切なタイミングで伝える」の3つが苦手な人達です（表現／表出性）
- 障害特性をしっかりと理解し、強度行動障害と言われる方々が理解できる方法で、「分かる」「伝えられる」コミュニケーションを行うことが、コミュニケーション支援の大切なポイントになります。

# 参考文献

- 坂井聡（2013）『自閉症スペクトラムなど発達障害がある人とのコミュニケーションのための10のコツ』エンパワメント研究所.
- アンディ ボンディ・オリ フロスト（2006）『自閉症児と絵カードでコミュニケーション -PECSとAAC』（園山繁樹・竹内康二訳），二瓶社
- L・R・ワトソンほか（1995）『自閉症のコミュニケーション指導法 - 評価・指導手続きと発達の確認 -』（佐々木正美・青山均訳），岩崎学術出版社
- 障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修  
（科学警察研究所）

